九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学
人社系協働研究・教育
コモンズ

掲載日（2026/04/08）

書籍の概要

テストは、なぜ、どのように「科学的」になったのか。

本書は、 19 世紀中葉から現代に至る教育測定の歩みを、理論・政策・実践の三つの軸から描き出す。教育を測る試みが生み出した理念、制度、そして葛藤の歴史をたどる。大規模テスト、妥当性、項目反応理論、政策、アセスメントなどのトピックから、教育測定の課題への取り組みと研究成果を吟味する。

教育測定の歴史：
「知を測る科学」の誕生と展開

ブライアン・E・クラウザー、マイケル・B・バンチ 編
木村拓也、脇田貴文 監訳
金子書房/516 ページ/2026 年 3 月出版

著者から一言

教育測定（Educational Measurement）の歴史とは、テスト理論の知識と学力調査や大学入試などそれを用いる制度的な知識の両者の関係を描き出す学際分野領域の研究と言えます。科学史・科学社会学の書籍として、実際に教育測定の理論に関わった第一人者による解説と、米国におけるその社会実装の経緯について深く知ることができる 1 冊です。

人間環境学研究院　木村拓也

目次

第I部　テストを巡る動向
第1章　教育測定の始まり
第2章　大学入学共通試験SATとACTの開発とその変遷
第3章　目標基準準拠テストと集団基準準拠テストの歴史
第4章　教育テスト政策の形成とその実践における連邦政府の役割
第5章　英語学習者の評価(アセスメント)における歴史的道標(マイルストーン)
第6章　米国におけるテストの公平(フェアネス)観の変遷
第7章　テスト論争の世紀

第II部　測定の理論と実際
第8章　古典的テスト理論の歴史
第9章　妥当性の概念の変遷
第10章　一般化可能性理論
第11章　項目反応理論～歴史的背景とその応用～
第12章　尺度化（スケーリング）の歴史と測定の関係
第13章　教育測定におけるベイス推論の歴史
第14章　1985年までのテスト等化（イクエイティング）の方法と実践の歴史
第15章　ラッシュ測定理論の歴史

【お問合せ先】
九州大学　人間環境学研究院　木村拓也(キムラ タクヤ)
E-Mail：kimura.takuya.329*m.kyushu-u.ac.jp
[*を@に換えてください]